

〈随筆・近況〉

東半球大縮尺図のことも

浅井辰郎

前号拙稿「プラスマイナスの当り年」中に「稀有の出物であるアジアの5万～25万分1の詳細い地図約16,000枚を買いたいと事務局長から会計課長に話してあった220万円がこれまた幸いにも文部省を通った。」と書いたことがある。この地図は昭和46年1月末無事に搬入され、今はほかに置く所がないので私の研究室に、巾85cm長さ5.5mに亘って洋服掛けを補強した架台3台にずっしりとその191冊が吊り下げられている。そしてその傍らには同じく「全学部でもその全機能を駆使できないのではないかと思うほど立派なM2型マイクロフィルム撮影機」が天井近くまで立っていて、この半年間にもうジャワやインドの地図撮影が約1500コマ、図書やレポートの複写が2000ページに及んでいる。このフィルムを業者にゼロックスで引伸ばせると、色こそないが原図と寸分違わない位鮮明な地図が実用価格で複製できるのである。地図と複写装置が一室に揃っているのは素晴らしい強みで、貴重な地図を動かして痛めたり、紛失したりする心配なく複写できるからである。

さてこの地図コレクションはなぜそんなに貴重なのであろうか。第1に世界における大縮尺地図完成現況を考えて戴きたい。T.W.Birch(1949)によれば、「詳細な測量を基にして」20～25万分1地図が出来ているのは、日本、朝鮮、満州、インドシナ半島の低地部、インド東半、スマトラ、インドネシア、オーストラリア東岸と白海—裏海—トルコ—地中海南岸域を含む帯のヨーロッパ側、アメリカ合衆国、カナダ、アラスカ南部であって、ほかには南米、アフリカ、ソ連内に点在するだけである。また「諸種の資料からやっと」地図らしいものがあるのは中国、ニューギニア中南部、インド西部からイランまで、エチオピア、モロッコなどに過ぎない。

第2にアジアの地図は現在日本を除いてどこも自由には買えないのである。10年位前にはタイなどで買えたこともあったが、戦火の拡がりつつある現在は夢想することもできない。

それなのにお茶大に今次表のような30年前とは言え、Birchの上表中、アジア・太平洋州を網羅する地図が入ったのである。とっくり利用して戴きたい。

冊 番	国 (地 域)	主な縮尺(万)	枚 数
1 ~ 37	現 日 本	20 ~ 0.3	3,278
38 ~ 43	東 亜	100 ~ 50	454
44 ~ 55	旧 領 土	5 ~ 2	1,021
56 ~ 67	満 州	20 ~ 2.5	1,229
68 ~ 74	北 シ ナ	10 ~ 5	677
75 ~ 104	南 シ ナ	10 ~ 5	2,924
105 ~ 117	インドシナ半島	25 ~ 5	1,218
118 ~ 127	インドマレー	12.5 ~ 5	968
128 ~ 130	比 島	20 ~ 5	167
131 ~ 134	スマトラ	25 ~ 5	449
135 ~ 139	ジャワ	5	441
140 ~ 143	ボルネオ・セレベス	20 ~ 5	305
144 ~ 148	パプア	50 ~ 5	292
149 ~ 151	太平洋諸島	20 ~ 2.5	178
152 ~ 155	オーストラリア・ニュージーランド	25 ~ 5	323
156 ~ 160	ハワイ・アラスカ	300 ~ 5	257
161 ~ 166	航空図・市街図・陸海編合図	300 ~ 5	198
海図 1 ~ 23	日本製海図 1 ~ 3516		1,242
24 ~ 25	外国製海図 1 ~ 3783		166
計	191冊		15,857

購入前、資源科学研究所にあるときからこの地図を使って行われた研究調査には、アジア各地の山地地形比較(東大 阪口)、メコン河の洪水地形分類(早大 大矢)、タイの植物(科博 黒川)、台湾の淡水魚(早大 渡部)、沖縄民家(法大 小川)、ラオス高地民族(大阪市大 川村)、インドネシア民俗(早大 西村)、などがあり、とくにおもしろいものでは玄井(三蔵)法師の天竺への足跡調査(奈良博 小野)がある。最近は産業開発に利用されている例も二三を下らない。正井先生は各国集落の定量的・形態的比較に早速使われた。他の先生も講義のとき教室へよく運ばれている。精々広く使われることを願ってやまない。今夏新しい研究棟に移ると、この地図はやはりM2カメラと一室に入ることになっている。